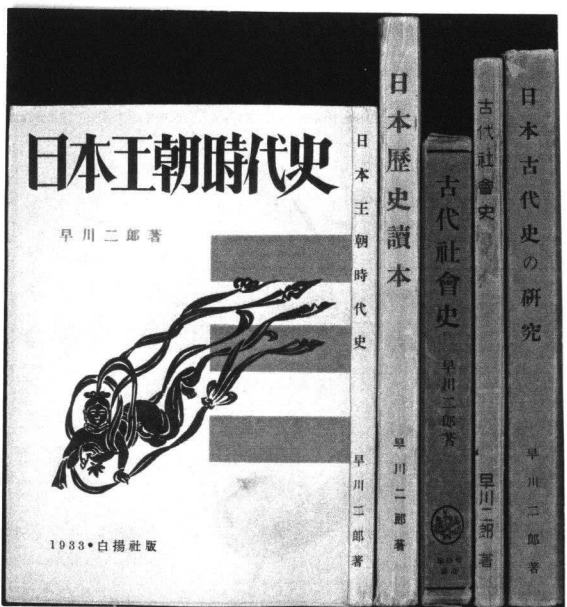


早川二郎 はやかわ じろう 歴史家。明治二十九年東京生れ、昭和十一年十一月八日歿（九〇六一三七）。本名小出氏聲。筆名大野勤、千村壽雄、木曾壽雄、淺生燦。昭和五年東京外國語學校教務科卒。七年コップ（日本プロレタリア文化聯盟）彈壓に連坐して檢舉せられた。十年唯物論研究會に加入し、渡部義通等と共に同研究の成果『日本歴史教程』を出すと、渡部等と論争、第一冊（昭和十一年刊）を以て脱退。奥秩父將監小屋で不慮の死を遂げた。當時のマルクス主義史學を代表する一人。

著書に『日本王朝時代史』（昭和八年十一月、白揚社）、『日本歴史讀本』（昭和九年五月十九日白揚社）、『古代社會史』（昭和十一年五月、二十日ニ書書房「唯物論全書」、再刊、二十一年六月、二十日岩崎書店）、『日本歴史論』（加藤喜久代編、昭和十一年十一月、二十日白揚社）、『日本古代史の研究』（昭和二十二年十一月、二十日白揚社）、『日本文化史ノート』（昭和二十四年二月五日眞善美社「ノート叢書」）等。譯書に、『ニコライ・レーニン著「トリストイとドイツゲン」』（淺生燦译、昭和二十二年二月一日思想社「上座會パンフレット」）、スヴェトロナインラード、メシン、ゲエーゴナ著『日本資本主義の發生』（昭和八年九月十七日白揚社）、『日本歴史一改訂版』（昭和九年二月五日白揚社）、『同盟物産文化史アカデミア編』唯物史觀『日本歴史』（橋本弘毅共譯、昭和十一年六月



一 白揚社）、N・コンラード著『奈良時代の土地制度―附録・レ
二』の『日本論』（昭和十一年五月十五日白揚社）、サフロフ著『支
那社會史―前資本主義時代』（昭和十一年六月十五日白揚社）、スヅ
エトロフ著『明治維新への展望』（昭和十一年八月五日白揚社）、サ
フロフ著『近代支那社會史』（昭和十一年十一月十六日白揚社）等。